

VI 附属資料

1 第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括

第1期総合戦略における重点取組を企画立案するための基礎資料とするため、「人口ビジョン」を策定し、人口動向の現状や将来推計の分析等を踏まえ、本市のめざすべき将来像を展望しました。

また、「吹田市人口ビジョン」の将来展望を踏まえ、第1期総合戦略において、4つの基本目標を定め、それぞれに数値目標も合わせて設定しました。更に、4つの基本目標を達成するための基本的方向、それらを実現するための具体的施策として33のアクションプランを設定しました。

(1) 第1期人口ビジョンの推計及び実績

【推計】

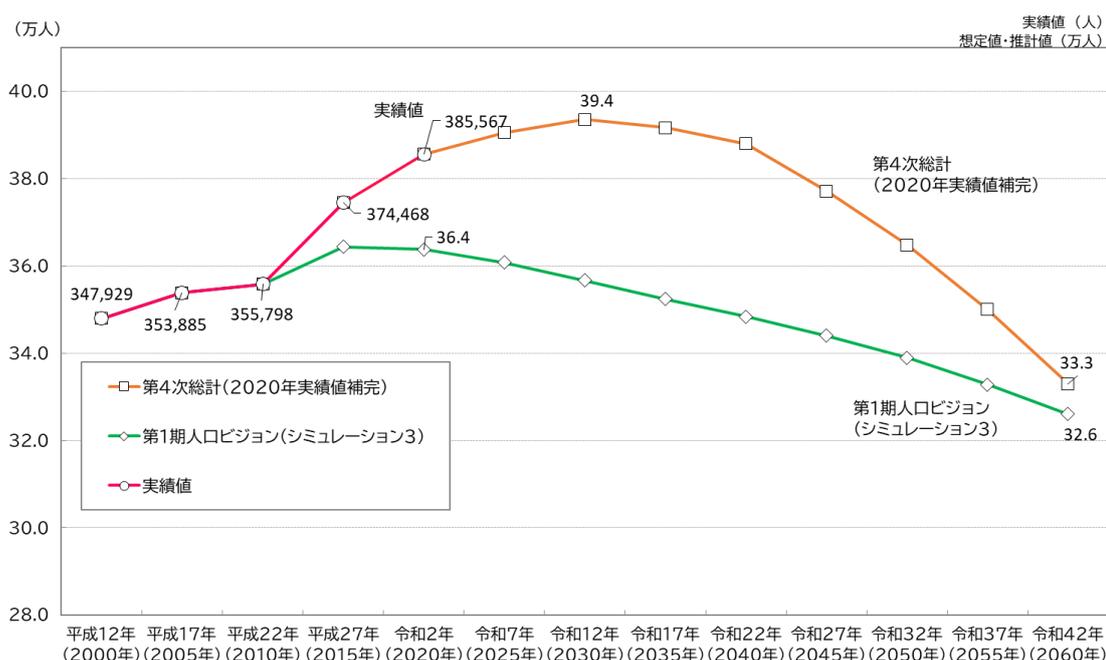
次の3つの基本的視点に立った取組を行うことにより、合計特殊出生率*が令和12年(2030年)頃までに1.8程度、令和22年(2040年)頃までに2.07程度まで向上し、学生をはじめとする若者の転出超過が25%程度抑制され、子育て世帯等の転入超過が促進される結果として、令和42年(2060年)頃に32万人以上の人口を確保することができると推計(シミュレーション3)。

「基本的視点」

- ① 若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望を実現できる環境を整えます。
- ② 「住みたいまち」としての魅力を高め、定住・転入を促進します。
- ③ 人口減少・超高齢化によって生じる課題に対応するとともに、健康寿命*の延伸を図り、安心して暮らし続けられるまちを実現します。

【実績】

令和2年(2020年)実績値を元にした令和42年(2060年)推計値(第4次総合計画における推計ベース)は33.3万人となっており、人口ビジョンで展望している令和42年(2060年)の推計人口を確保できる予測となっています。



(2) 4つの基本目標の達成状況（令和4年度（2022年度））（達成は★）

それぞれの基本目標に基づき設定した11の数値目標のうち、達成した目標が6、未達成の目標が5で、達成率は54.5%でした。

転入超過の維持、市民の定住意向の高まり、安心して子育てができる環境にあると思う世帯の割合の増加、市内大学生の市内企業への就職希望率の向上など、人口増につながる数値目標を達成することができました。

基本目標1 企業が成長し、地域経済に元気をもたらすまち

指標	策定時	令和4年度 (2022年度) 実績	目標値
事業所における労働生産性 (従業者1人あたり付加価値額)	480万円	493万円 (H28)	504万円
開業率－廃業率	2.1pt	△2.4pt (H28)	3pt以上
商店街等における空き店舗率	9.0%	9.2%	7.3%以下

基本目標2 「住む」「楽しむ」新たな魅力が見つかるまち

指標	策定時	令和4年度 (2022年度) 実績	目標値
★ 転入超過を維持	1,939人	2,572人	維持
★ 市民の定住意向	57.8%	61.4%	60%以上
本市観光施設利用者数（累計）	367万人	3,208万人 (R3)	累計1億人

基本目標3 就職・子育ての希望がかない、未来を担う人材が育つまち

指標	策定時	令和4年度 (2022年度) 実績	目標値
就労支援施策等による若年者の就職者数 (累計)	299人	1,652人	2,250人
★ 市内大学生の市内企業への就職希望率	30.8%	56.7% (R2)	35.8%
★ 安心して子育てができる環境にある と思う子育て世帯の割合	62.3%	70.4%	70%
★ 保育所待機児童数	90人	0人	0人

基本目標4 誰もが安心して暮らせる「幸齢社会」が実現するまち

指標	策定時	令和4年度 (2022年度) 実績	目標値
★ 健康寿命*	男性79.94歳 女性83.66歳 (H22)	男性81.7歳 女性85.2歳 (R2)	男性81歳 女性85歳

(3) アクションプランの達成状況（令和4年度（2022年度））

基本目標の実現のため、基本的方向に沿って具体的施策を定めました。

基本目標	基本的方向
1 企業が成長し、地域経済に元気をもたらすまち	(1) 北大阪健康医療都市における国際級の複合医療産業拠点の形成
	(2) 市内への企業移転・進出による地域産業の活性化
	(3) 創業促進や企業の成長支援による雇用の創出
	(4) 魅力ある商業地づくり
2 「住む」「楽しむ」新たな魅力が見つかるまち	(1) 都市魅力の強化と戦略的な情報発信
	(2) 環境に配慮した快適で機能的なまちづくり
3 就職・子育ての希望がかない、未来を担う人材が育つまち	(1) 若者の地元就職への支援と働きやすい環境の整備
	(2) 子育てしやすい環境の整備
	(3) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
	(4) 未来を拓く教育の充実
4 誰もが安心して暮らせ「幸齢社会」が実現するまち	(1) 健康・医療のまちづくりによる健康寿命*の延伸
	(2) 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり
	(3) 地域コミュニティの強化による安心安全のまちづくり
	(4) 市民ニーズの変化に応じた都市の形成

具体的施策を33のアクションプランとしてまとめ、その達成状況を測るため、77のKPI*を設定しました。

その達成状況の一覧については、次の表のとおりです。

基本目標		1 企業が成長し、地域経済に元気をもたらすまち	2 「住む」「楽しむ」新たな魅力が見つかるまち	3 就職・子育ての希望がかない、未来を担う人材が育つまち	4 誰もが安心して暮らせる「幸齢社会」が実現するまち
KPI の 達 成 状 況	KPI数	9	14	23	31
	達成※	1	3	9	14
	未達成	7	8	12	17
	調査結果未	1	3	2	2
	達成率	11.1%	21.4%	43.4%	45.2%
評 価	施策数	5	6	9	13
	A	3	4	6	12
	B	2	1	3	1
	評価未	0	1	0	0

※最新の実績値が令和4年度（2022年度）以前のものを含む。

KPI*の達成状況は、達成が27、未達成が44、令和4年度（2022年度）末時点で調査結果が出なかったものが6で、達成率は35.0%でした。

また、各アクションプランを「A：目標達成に向け取組が進んでいる」「B：目標達成に向け取組の強化が必要又は直近実績から後退している」「C：方針、具体策等を検討中」「D：未着手又はアクションプランの見直しが必要」の4段階で評価し、A評価は25、B評価は7、令和4年度（2022年度）末時点の実績がまだ把握できていないため評価未となったものが1でした。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響によりKPI*が未達成となったものもあり、KPI*に掲げる事業以外で基本目標の達成に資する取組を行った場合には、A評価としたものもあります。

（4）総括

各アクションプランに基づいて取組を進めてきたものの、KPI*を達成できていない項目が多くあります。策定から10年近くが経過する中で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大などにより社会状況も大きく変化したことから、設定したKPI*とは別の取組で基本目標の達成に資する取組で補っている項目もありました。

基本目標2、3及び4の数値目標については、半数以上が目標を達成しています。

2 第2期人口ビジョンの推計方法

1 推計フレーム

コーホート要因法*

2 ベースとなる人口

令和2年（2020年）国勢調査の総人口及び男女別・年齢5歳階級別人口

3 自然増減

国立社会保障・人口問題研究所*「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」における吹田市の比率を使用

(1) 出生

吹田市の子ども女性比（0-4歳人口と15-49歳女性人口の比）：0.2前後

→合計特殊出生率*（1人の女性一生の間に生む子どもの数）に換算：1.47前後

(2) 死亡

性別・年齢5歳階級別の生残率から推計

4 社会増減

純移動率*（1,000人あたりの移出入の割合）を使用

(1) 市域全体

平成27年（2015年）から令和2年（2020年）までの国勢調査における純移動率*（千里ニュータウン以外）が維持すると仮定

(2) 千里ニュータウン

平成18年（2006年）から平成27年（2015年）までの10年間の開発動向と今後の計画、残された開発余地等から平成27年（2015年）以降の増加人数を想定

- ・住宅開発がなされた際の1戸当たりの人口増加数を3.1人と想定（過去実績）
- ・開発余地のうち、過去の実績から面積当たりの戸数の平均値を算出し、新規開発戸数を想定（既存住宅の建て替え相当分の戸数は除く）→今後20年で3,152戸の開発見込み
- ・想定増加人口は $3,152 \text{ 戸} \times 3.1 = 9,771 \text{ 人}$
- ・その人数を平成27年（2015年）から令和12年（2030年）までの間を3期に分けて、該当分の増加人数を割り振り

3 用語集

用語	説明	掲載箇所
ICT	情報や通信に関する技術の総称。Information and Communication Technology（情報通信技術）の略。	基本目標・数値目標
行政評価	市が実施した取組の成果や進捗状況を客観的な評価基準に基づき、把握・分析すること。	進捗管理
KPI	目標の実現のために実施した具体的な施策について、成果や進捗を客観的に評価するための指標。	進捗管理
健康寿命	世界保健機関（WHO）が平成 12 年（2000 年）に提唱した指標。一般に、健康状態で生活することができる平均期間又はその指標の総称を指す。健康日本 21（第 2 次）では、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定められている。その期間を可能な限り長くできるように、平均寿命と健康寿命の差を縮めることが重要。	基本目標・数値目標
広域連携	この計画では、地域において住民が安心して快適に生活を営むことができるようにするため、地域全体で協力して行政課題に対応することを目的に市町村が他の地方公共団体と連携すること。	基本目標・数値目標
合計特殊出生率	15 歳から 49 歳までの女性の年齢ごとの出生率を合計したもので、一人の女性が生涯、何人の子供を産むかを推計したもの。	人口ビジョン
コーホート要因法	年齢別人口の加齢に伴って生ずる年々の変化をその要因（死亡、出生及び人口移動）ごとに計算して将来の人口を求める方法	附属資料
国立社会保障・人口問題研究所	社会保障及び人口問題に関する調査及び研究を行うことを通じて、国民の福祉向上に貢献することを目的として設立された研究所。	人口ビジョン
純移動率	ある期間における転入と転出の差で求められる純移動数を、期間のはじめの人口で割って求められる数値。プラスであれば転入超過で人口が増える要因となり、マイナスであれば転出超過で人口が減る要因となる。	人口ビジョン
人口置換水準	人口規模が維持される出生率の水準のこと。	人口ビジョン
脱炭素（社会）	二酸化炭素の排出を従来よりも低く抑える低炭素社会に対して、二酸化炭素排出量を実質的にゼロにした社会のこと。	基本目標・数値目標
地方創生	少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目指すもの。	策定の趣旨
デジタル・トランスフォーメーション（DX）	Digital Transformation、デジタル変革のこと。ICT が、あらゆる領域（例えば、産業構造や社会基盤）に影響することによってもたらされる変革。	基本目標・数値目標
デジタル実装	デジタル技術を活用した新たな仕組みを、社会において実際に使用できる状態にすること。	基本目標・数値目標

用語	説明	掲載箇所
デジタルデバイド	情報格差ともいう。年齢・身体・社会的条件等によって、インターネット等のICT（情報や通信に関する技術の総称）を利用し使いこなせる人と使いこなせない人との間に生じる格差。	基本目標・数値目標
デジタル田園都市国家構想総合戦略	デジタルの力で、地方の個性を活かしながら社会課題の解決と魅力の向上を図り、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指す「デジタル田園都市国家構想」を実現するために、各府省庁の施策を充実・強化し、施策ごとに2023年度から2027年度までの5か年のKPI（重要業績評価指標）とロードマップ（工程表）を位置付けたもの。	策定の趣旨
PDCA サイクル	P（Plan：計画）、D（Do：実行）、C（Check：評価）、A（Action：改善）のサイクルによる施策や事業などの立案から評価に至るまでのプロセス。総合計画においては、P（基本構想、基本計画、実施計画の立案）、D（事業実施）、C（行政評価）、A（翌年度の実施計画などへの反映）のサイクルにより進行管理を行う。	進捗管理
まち・ひと・しごと創生長期ビジョン	人口減少をめぐる問題に関する国民の認識の共有を目指すとともに、今後、目指すべき将来の方向を提示することを目的として策定された長期ビジョン。	人口ビジョン
まち・ひと・しごと創生法	人口減少に歯止めをかけ、東京一極集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して将来にわたって活力のある日本社会を維持していくため、制定された法律。	策定の趣旨